答辞

京都の厳しい冬も和らぎ、春の匂いがささやかに感じられるようになった本日、学位授与式を開催していただいたことに修了生一同より心から感謝を申し上げます。新型コロナウイルスの影響によって、この1年で私たちの生活は一変させられました。人との触れ合いが難しくなった状況下で、学生生活の最後にこのような貴重な機会をいただいたことに重ねて感謝を申し上げます。

京都大学では先生方から沢山の素晴らしいご指導をいただきました。学問の世界は自分が想像したよりも遥かに広く、奥深いものでした。先生方の導きによって、私たちは自ら思考し、行動し、自分たちの興味をより深め、学ぶことの喜びを知りました。

特に設計課題や論文に取り組む中で、大学を抜け出し様々な風景に触れてまわりました。自らの眼で確かめ、肌で感じ、直接の対話をすることで自分のアイデアを形にしていくという姿勢こそ、都市や建築における新たな価値の創出に繋がるということを学びました。都市や建築は机の上の議論に収まるものではなく、自分たちの身体を通した社会と対話とのなかで考えていくものだと知りました。

春の桜には毎年のように背中を押され、夏の暑さから逃れるように鴨川で夕涼みをしました。秋は紅葉に染まる景色に心落ち着かせ、冬は雪が降る窓の外を眺めながら課題に取り組みました。豊かな四季に彩られた京都の街で、多くの温かく個性的な仲間と出会いました。この場所で皆とともに研究に努めた時間も、とるにたらない話に花を咲かせた一瞬も私にとって何にも替え難い思い出です。

人と人との間の距離が変化した今日、直接の対話や肌で感じる機会が失われつつあります。しかし建築や社会を創っていく私たちは現実社会で起こる課題から目を背けるべきではなく、直接感じ学ぶことを忘れてはなりません。めまぐるしく社会の状況が変わる中でも、この京都大学で学んだ姿勢を心に、新たな道を切り拓いていきたいと思います。

最後になりましたが、指導してくださった先生方、いつも支えてくださった職員の皆様、ここまで温かく見守ってくれた家族、皆様のおかげで本日、こうして修了の日を迎えることができました。皆様のご健康をお祈りいたしまして、答辞と致します。

令和3年3月24日

修了生代表　大橋 茉利奈